

金融もこなす事業会社へ

SMFL<sup>①</sup>

挑戦する企業



事業が一通り

三井住友ファイナンス&リース(SMFL)は2021年1月に不動産投資ファンドを手がけるケネディクスを買収し、連結子会社化した。SMFL社長の橋正喜は「不動産事業ではアセットマネジメントや不動産投資などの機能を持っていなかった。ケネディクスと一緒になれば事業が一気

不動産の資産回転を推進

通貫になる」と狙っていた」と振り返る。既に両社の間にはシナジーが生まれている。SMFL子会社のSMFL(東)とケネディクス(東)の不動産への共同投資を「分散型台帳」技術を用いて説明し、資産売買で資本効率を高める「資産回転型ビジネス」の確立に向けた足場固めを理由の一つに挙げる。

一方、ケネディクス社長の宮島大祐は資産の効率的な活用を強調する。「SMFLが資産を持つビジネスなのに対し、当社は資産を持たないビジネス。アセットマネジメントのベースになるものを持ってもらい、当社がビジネスを加速したかった」と振り返る。

既に両社の間にはシナジーが生まれている。SMFL子会社のSMFL(東)とケネディクス(東)の不動産への共同投資を「分散型台帳」技術を用いて説明し、資産売買で資本効率を高める「資産回転型ビジネス」の確立に向けた足場固めを理由の一つに挙げる。

一方、ケネディクス社長の宮島大祐は資産の効率的な活用を強調する。「SMFLが資産を持つビジネスなのに対し、当社は資産を持たないビジネス。アセットマネジメントのベースになるものを持ってもらい、当社がビジネスを加速したかった」と振り返る。

ケネディクスとデジタル証券

率的な活用を強調する。「SMFLが資産を持つビジネスなのに対し、当社は資産を持たないビジネス。アセットマネジメントのベースになるものを持ってもらい、当社がビジネスを加速したかった」と振り返る。

既に両社の間にはシナジーが生まれている。SMFL子会社のSMFL(東)とケネディクス(東)の不動産への共同投資を「分散型台帳」技術を用いて説明し、資産売買で資本効率を高める「資産回転型ビジネス」の確立に向けた足場固めを理由の一つに挙げる。

一方、ケネディクス社長の宮島大祐は資産の効率的な活用を強調する。「SMFLが資産を持つビジネスなのに対し、当社は資産を持たないビジネス。アセットマネジメントのベースになるものを持ってもらい、当社がビジネスを加速したかった」と振り返る。



不動産STで投資対象になった「ドーミーン神戸元町」

雪の花」、ホテル「ドーミーン神戸元町」の信託受益権をSTにひも付けて証券化し、個人投資家に販売した。

宮島は「個人に対して、機関投資家と商品買付をやりやすく、ケネディクスは今年にも個人客にも不動産STを知ってもらうための情報を提供したい」とさらなる連携を模索していく方針だ。

「セキュリティー・トークン(ST)」でも連携が進んでいる。不動産を裏付けとした不動産STでは、SMFLみらいパークが保有している「リゾート」感が刺激になった旅館「湯けむりの宿」

(敬称略)